

第二十九回 頭蓋骨のズレた状態での歯の修復

頭蓋骨のズレた状態で歯を修復しますと頭蓋骨から足迄すべてがズレをおこした状態になり、色々な不定愁訴をひきおこすだけでなく、大脳の右脳と左脳の間「つい立て」のようなものである脳梁(のうりょう)が否みをおこします。原因は上の歯全体、下の歯全体との咬み合せのバランス、及び左右の上下顎のねじれが大きな原因といわれています。脳梁の否みをおこしますと、右脳と左脳の間を往来している脳内物質(ドパミン、アドレナリン等)が往来しなくなり、言語障害・神経障害、つまり運動障害、精神障害をおこします。

歯の咬み合せがズレているかどうか外観からの見分け方

- ・疲れた時、口がゆがむ。
- ・左右の耳の後の頭蓋骨の骨に指頭に似た大きさの骨が少し下へ伸びています。これが左右上下にズレをおこしたり、又前後に耳との間のすき間が左右違っている。
- ・片方の鼻が詰まる。
- ・首肩が凝る。
- ・体の片側半分が冷たく感じ、又片側半分の体が変。
- ・片方の肩が下がる。
- ・背骨がCカーブ又はSカーブ、又は猫背。
- ・左右の腰骨の高さが違う。
- ・お尻の左右のどっぴりが違う。
- ・椅子に座る時、足を組まないと安定が悪い。
- ・歩くと左右に横揺れする。
- ・肢関節、足のヒザの痛み、足首の捻挫、外反母趾。
- ・左右の足の長さの違い。

(但し歯の矯正治療した人は体の拒否反応、つまり体の病的状態になる為(原膜の緊張)に左右差が少なく見えます。)

歯の咬み合せだけでなく、頭蓋骨の骨格がズレてしまったオープンバイトがあります。「オープンバイト」とは前歯から奥歯にいくに従って三角定規のように段々に狭くなり奥歯の1~2歩しかあたらぬ、前に行くに従って隙間が段々大きくなるタイプです。

このオープンバイトとよく似たのが「猫背」です。オープンバイトも猫背も上下の歯が前方に向かって拮がっていますが、お尻の真中の骨(仙骨)と背骨の一番下の骨(腰椎5番)の間が同じ角度で今度は後に拮がっています。このようなタイプの人には老人になると筋肉が衰え、腰が曲がってくる事になります。それだけでなく左右の上の顎のドテと下の顎のドテが平行な状態であれば顎関節部に負担がかからないものが歯の治療をして、左右のドテが全く平行でない顎だけでなく頭蓋

骨にもズレをおこし、難聴の原因だけでなく、首の後、左右の肩(必ず左右)が凝り、口が開きにくいか、開くときに顎の痛み、背骨の上部、足のかかるとに痛みが出やすくなります。

オープンバイトも猫背も奥歯の歯の咬みしめが強く、歯ぎしりで歯を痛め、又歯医者が歯の咬み合せの調節すると奥歯が強くなる為ますます歯が低くなったり、更に猫背等になっていきます。このように頭蓋骨のズレをおこしますと、血の流れを変えてしまいます。それが動脈硬化等と相乗反応して、脳梗塞をおこし、脳梗塞になった人で綺麗な歯の人は誰もいません。入れ歯が歯に冠をかぶせているものです。手足の不自由は完全には元に戻りませんが、頭蓋骨を治して歯の咬み合せを正しくすれば 70~80%は元に戻るものです。又「むちうち症」になる人は生理的湾曲してなく「直」になっています。足踏みをしますと首がフワフワと落ち着きがなく、歯の咬み合せで生理的湾曲を作りますと、足踏みをしても安定するものです。

次回は歯の矯正治療での後遺症を予定しています。